

親知らず抜歯についての説明と同意書

説明医師名

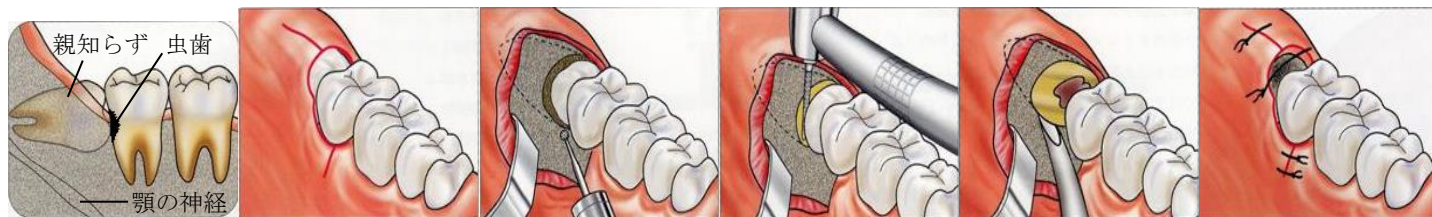
親知らず(智歯)は歯肉や骨の中に埋まっていて、彎曲など歯根の異常をとまなっていることが多く、抜歯は困難で専門的な知識や技術が必要です。当院歯科口腔外科は「親知らず抜歯」の専門科ですが、それでも術後に著しい痛みや腫れなどの不快症状を生じることがあり注意が必要です。抜歯しない場合の欠点と、抜歯した場合の欠点(起きるであろう不快症状など)の説明を受け、納得の上で抜歯されることをお勧めします。

◎親知らず抜歯の必要性について

- ☐ 親知らずが傾斜したり骨に埋まって手前の歯に引っかかっているため、将来も生えてこない。
- ☐ 手前の歯との間に食片が入り込んで、抜歯しないしていると虫歯や歯周炎になって、親知らずと手前の第二大臼歯を抜歯しなくてはなくなる可能性がある。
- ☐ 親知らずのまわりに汚れがたまり、歯肉に炎症を起こしている。
- ☐ 親知らずのまわりに膿の袋ができて骨を吸収していて、将来大きくなる可能性がある。
- ☐ 歯列不正の原因になっている。将来その可能性がある。

◎抜歯の術式(手順)

- ① 麻酔 → ② 切開する → ③ 骨を削除する → ④ 歯を分割する → ⑤ 抜歯 → ⑥ 歯肉を縫合する



手術時間は 40～60 分間くらいです。手術中の状況により術式が変更になることがあります。

術後に鎮痛剤と抗菌剤の薬を処方します。抜歯の翌日に洗浄処置、7 日後に縫合糸を取ります。

通常は通院で行いますが、痛みが弱い方は日帰り入院下で笑気鎮静法を行った上、痛くなく抜歯することもできます。歯根と顎の神経の位置関係を詳しく見るため、CT 検査を受けてもらうこともあります。

◎術後に以下の症状が出る場合があります

- ・痛み…2～4 日間あります。
- ・頬の腫れ…4～7 日間あり、口が開きにくくなったり食事を取りづらくなる場合があります。
- ・出血…にじむような出血がありますが心配いりません。量が多い時はガーゼを約 20 分間かんで下さい。
- ・内出血…頬に紫色や黄色のあざが出ることもまれにありますが、1～2 週間で消失します。
- ・下唇と舌の知覚麻痺…下顎の親知らずの歯根の下方には顎の神経が通っています。近接している場合には、抜歯後に下唇にしびれ感が出ることもまれにありますが、しびれをとる薬を飲んでもらうことで、数ヶ月で回復することがほとんどですが、非常にまれに数年ごく軽いしびれ感が残ることもあります。唇が曲がったり、話しづらいということはなく、見た目ではわからない軽い麻酔が効いているような状態です。下唇の知覚麻痺のデータ上での発現率は 0.4～5.5%、6 ヶ月後にも認めていたのは全体の 0.05%と報告されています。麻酔の注射の針先が舌の神経を刺激して、非常にまれに舌にしびれが出る場合があります。
- ・治癒不全…血液のかさぶたが取れたり食片が入って、治りが遅くなって痛みや腫れが出る場合があります。抜歯後に感染を起こした場合には、効果のある抗菌剤を選び内服してもらいます。
- ・発熱…まれにでることがあります。抜歯後当日は、無理はせず体を安静にして早目にお休みください。

上記の説明を受け納得しましたので、治療を受けることに同意します。

平成 年 月 日 患者氏名